

脳梗塞リスク評価で脳梗塞リスクを手軽に把握

－ 世界で初めての脳梗塞リスクマーカー －



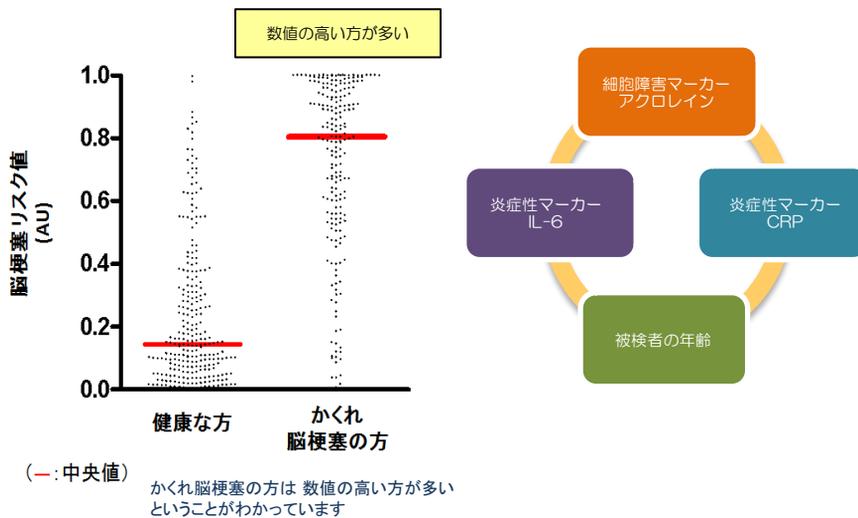
脳梗塞になるリスク

自覚症状がない、小さな脳梗塞を持っている無症候性脳梗塞の方は、健常な方比べて脳梗塞になるリスクが高くなるといわれています。

「無症候性脳梗塞」 かくれ脳梗塞ともいわれています
Silent brain infarction (SBI)

約85%の精度で無症候性脳梗塞を検出できます

脳梗塞リスク評価は、**血液検査**で脳梗塞のリスクをしらべます。
脳梗塞で細胞が傷つくと血液内で増える『**アクロレイン**』。
そのアクロレインと、炎症マーカー2種を測定し、被験者の年齢を考慮に入れた独自のリスク値算出方法により、約85%の精度で無症候性脳梗塞の検出が可能です。



検査は 問診と採血



結果はおおよそ
2~3週間後に



全国200以上の医療機関に導入されています

脳梗塞リスク評価は、全国200以上の医療機関、健康保険組合、共済組合等に導入されています。
ご興味のある方は弊社ホームページをご覧ください。

<https://www.amine-pharma.com>

脳梗塞リスク評価 医療機関

検索

我々は脳梗塞リスク評価サービスを通じて皆様の健康をサポートします



株式会社アミンファーマ研究所

代表取締役社長 五十嵐 一衛

当社は、代表取締役社長 五十嵐一衛(千葉大学名誉教授)が、千葉大学大学院薬学研究院の教授として実践してきた研究の成果を基に、平成19年4月に設立した千葉大学発のベンチャー企業です。大学発ベンチャーとして、産官学など多くの機関・団体から様々な支援を受けて、このサービスを提供することが出来ております。今後も研究開発に注力し、高い科学的信頼性に支持された研究成果の社会還元にあげず努めてまいります。

リスク値が高かったら どうしたらいいの？

無症候性脳梗塞（かくれ脳梗塞）の可能性が高いです。無症候性脳梗塞は自覚症状がありませんが、これがあると脳卒中、認知症になりやすいと言われていますので、脳ドック等の画像健診をお勧めしています。

倒れる前の未病のうちにリスクを捉えて、健康寿命を延ばしましょう。



どれくらいの頻度で 受けるといいの？

この脳梗塞リスク評価は細胞の壊れ具合と関連することから、その日その時のリスクが分かります。脳ドックのファーストスクリーニングとして安価・手軽にご利用いただけますので、他の健康診断と同様に1年に1回程度の検査をお勧めしています。

脳梗塞リスク値が高かった方への健康寿命維持のためにおすすめ

1. 三大生活習慣病（高血圧症、糖尿病、高脂血症）、特に高血圧にお気をつけください
2. 適度な運動を心がけてください
3. アクロレインを除く食物として、ニンニク、ねぎ、豆類（含・納豆）、きのこがおすすめです

脳梗塞リスク評価に関する用語解説

アクロレイン

アルデヒドの一種で $\text{CH}_2=\text{CHCHO}$ の化学式で示されます。身近なところだと、アルデヒドにはシックハウスの原因となるホルムアルデヒドや二日酔いの原因になるアセトアルデヒドなどがあります。体の中では、脳梗塞で細胞が傷つくと血液内で増えてしまいます。

IL-6（インターロイキン-6）

細胞間コミュニケーションの機能を果たし、種々の生理現象や炎症反応などに関与している糖タンパク質です。脳梗塞で細胞が傷つくなどして炎症等が起こることで、マクロファージ等の免疫に関与する細胞や神経細胞などから分泌されることが知られています。

CRP（C-リアクティブ・プロテイン）

正常な状態では血液にごく微量にしか存在しませんが、脳梗塞など炎症や組織細胞の破壊が起こると血液中に増加するタンパク質です。IL-6が肝細胞に結合することで、肝臓からの分泌が誘導されます。組織の損傷に鋭敏に反応することから、炎症に対するバイオマーカーとして広く利用されています。